

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】令和 2 年 5 月 14 日 (2020.5.14)

【公開番号】特開 2018-201636 (P2018-201636A)

【公開日】平成 30 年 12 月 27 日 (2018.12.27)

【年通号数】公開・登録公報 2018-050

【出願番号】特願 2017-107361 (P2017-107361)

【国際特許分類】

A 6 1 M 39/22 (2006.01)

【F I】

A 6 1 M 39/22 1 0 0

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 4 月 1 日 (2020.4.1)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

円筒状外側部材と、該円筒状外側部材から径方向外方の第 1 方向、該第 1 方向と異なる第 2 方向並びに該第 1 方向及び該第 2 方向に交差する第 3 方向にそれぞれ突出する第 1 ~ 第 3 管とを有する本体と、

外周面が前記円筒状外側部材の内周面に対して間隔を有するように前記円筒状外側部材の内側に配置され、該円筒状外側部材と一方の側の端部同士が固定された円柱状中央部材と、

前記円筒状外側部材と前記円柱状中央部材との空間においてこれらに対して密接しながら周方向に回転し得るように配置された円筒状回転部材、及び該円筒状回転部材を回転させるためのハンドルを有する回転部と備え、

前記第 1 ~ 第 3 管は、前記円筒状外側部材に形成された第 1 ~ 第 3 開口部をそれぞれ經由して前記円筒状外側部材の内周面に開口しており、

前記円柱状中央部材は、前記第 1 開口部及び前記第 3 開口部にそれぞれ対峙する位置に第 1 流路端部及び第 2 流路端部を有する第 1 内部流路と、前記第 3 開口部及び前記第 2 開口部にそれぞれ対峙する位置に第 3 流路端部及び第 4 流路端部を有する第 2 内部流路とを有し、

前記円筒状回転部材は、前記円筒状外側部材に対する該円筒状回転部材の回転角度が第 1 角度であるときに、前記第 1 開口部と前記第 1 流路端部との接続、前記第 2 開口部と前記第 4 流路端部との接続、並びに前記第 3 開口部と前記第 2 流路端部及び前記第 3 流路端部との接続をそれぞれ行う第 1 ~ 第 3 接続孔を有し、前記回転角度が第 2 角度であるときには前記第 1 ~ 第 3 開口部を閉塞するものであることを特徴とする三方活栓。

【請求項 2】

前記第 3 開口部は、前記第 1 内部流路の第 2 流路端部に対峙する第 1 流路側開口部と、前記第 2 内部流路の第 3 流路端部に対峙する第 2 流路側開口部とで構成され、

前記第 3 接続孔は、前記円筒状回転部材の回転角度が前記第 1 角度であるときに前記第 1 流路側開口部に接続する第 1 流路側接続孔と、前記第 2 流路側開口部に接続する第 2 流路側接続孔とで構成されることを特徴とする請求項 1 に記載の三方活栓。

【請求項 3】

前記第 1 内部流路は、前記第 1 流路端部から前記円柱状中央部材の径方向内方に進み、

曲折して径方向外方に進んで前記第 2 流路端部に達する L 字状の流路で構成され、

前記第 2 内部流路は、前記第 4 流路端部から前記円柱状中央部材の径方向内方に進み、

曲折して径方向外方に進んで前記第 3 流路端部に達する L 字状の流路で構成され、

前記第 2 流路端部と前記第 3 流路端部とは、前記円柱状中央部材に設けられた連通部を経て相互に通じており、

前記円筒状回転部材の回転角度が第 3 角度であるとき、前記第 1 接続孔及び前記第 2 接続孔は、それぞれ前記第 2 開口部と前記第 4 流路端部との接続及び前記第 1 開口部と前記第 1 流路端部との接続を行うものであることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の三方活栓。

【請求項 4】

前記第 1 内部流路及び前記第 2 内部流路は、前記円柱状中央部材の外周面に設けられた溝状の流路により構成されることを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載の三方活栓。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 4】

第 3 発明に係る三方活栓は、第 1 又は第 2 発明において、

前記第 1 内部流路は、前記第 1 流路端部から前記円柱状中央部材の径方向内方に進み、曲折して径方向外方に進んで前記第 2 流路端部に達する L 字状の流路で構成され、

前記第 2 内部流路は、前記第 4 流路端部から前記円柱状中央部材の径方向内方に進み、曲折して径方向外方に進んで前記第 3 流路端部に達する L 字状の流路で構成され、

前記第 2 流路端部と前記第 3 流路端部とは、前記円柱状中央部材に設けられた連通部を経て相互に通じており、

前記円筒状回転部材の回転角度が第 3 角度であるとき、前記第 1 接続孔及び前記第 2 接続孔は、それぞれ前記第 2 開口部と前記第 4 流路端部との接続及び前記第 1 開口部と前記第 1 流路端部との接続を行うものであることを特徴とする。